

# 区財政の伸び122億円。お金はあっても区民の暮らし支えようとしない区長の姿勢追及

## 足立区 決算審議 はじまる

10月2日から足立区の「二〇〇五年度決算特別委員会」が始まりました。日本共産党は鈴木けんいち、針谷みきお、伊藤和彦、橋本三子、さとう純子、松尾かつやの6議員をたて、鈴木区政の決算、政治姿勢などを追及します。

第一日目の質疑に先立ち行われた委員長、副委員長長の互選で、日本共産党の針谷みきお議員が副委員長に選任されました。同日行われた鈴木けんいち議員の質問要旨を紹介し、橋本三子議員の質問要旨は次号で報告します。



質問する鈴木けんいち議員

鈴木けんいち議員の質問要旨は次のとおりです。

○質問一 安倍総理の演説を聞きに言って失望したと言う人がいる。ワーキングプア、働いても生活保護以下の生活しかできない人が増えている状況もとの決算審議となる。

歳入は23区全体で3年連続の伸びを示す中で、足立区も歳入が122億円の増となったが、要因は何か。

●答弁一 区税の増収、交付金は対前年度より落ちているが相当の規模で入ってきている。分担金、使用料、繰入金などが増えている。

### 区財政はうるおったが、区民の暮らしは苦しくなった

○質問一 特別区民税が8年ぶりに増収になったが、その理由はなにか。

●答弁一 特別配偶者控除の廃止で、8億8千万円の増収。これまで受けられていたのは6万2千人。配偶者の均等割課税で3万3千人が課税となり、5千万円の増収、合わせて9億3000万円増収となった。

○質問一 つまり増税だ。区民は増税やリストラ、そういう背景で区の財政はうるおう状況が生まれている。使用料・手数料はふえ、ここでも区民負担増となっている。財産収入が22億円増になっているがこれは何か。

●答弁一 土地の売却、売り払い収入だ。

○質問一 買いすぎた土地をバンバンいま売っているという感じだが、区民の貴重な財産は売却。投資的経費はどうか。

●答弁一 前年比50億円余増加した。

○質問一 三位一体の改革の影響もあり、経常収支比率(下がった)だけ自治体財政の自由度・余裕度を示すと言われるが23区全体でも足立区でも下がった。公債費比率(借金返済必要額の割合を示す)も将来に渡る財政負担も減り、積立金は増えた。

### 生保世帯・就学援助受給世帯ふえ、貯蓄ゼロ世帯も急増

一方、区民の生活はどのように変化してきたか。15年度から17年度にかけて生活保護受給世帯はどう変化してきたか。

●答弁一 15年度は、1万1537世帯、1万6209人。16年度は1万2113世帯1万7280人。

○質問一 6〜7%増えている。国保料の収納率はどうだったか。

●答弁一 15年度85%、16年度82・91%、17年度82・82%で

## 決算特別委員会各会派別発言順位・発言時間・審査日程表

会派名	議員数	委員数	審議時間(分)	10月2日(月)		10月3日(火)		10月5日(木)		10月6日(金)		10月10日(火)		10月11日(水)	
				順位	時間	順位	時間	順位	時間	順位	時間	順位	時間	順位	時間
自由民主党	21	10	690	1	60	3	60	2	60	1	60	3	60	2	60
足立区議会 公明党	13	6	415	2	30	1	30	3	30	2	30	1	30	3	30
日本共産党 足立区議団	11	6	415	3	30	2	30	1	30	3	30	2	30	1	30
足立区議会 民主	4	2	140	4	30	4	30	4	30	4	30	4	30	4	30
計	49	24	1660	1	280	1	280	1	280	1	280	1	280	1	260
審査時間				9:30~10:00	10:00~16:00	10:00~16:00	10:00~16:00	10:00~16:00	10:00~16:00	10:00~16:00	10:00~16:00	10:00~16:00	10:00~15:20		
審査区分				・正副委員長 一般計繰入金全部 互選 ・審査方法について				繰出第4款 産業経済費 繰出第6款 土木費 繰出第7款 教育費 繰出第8款 公費 繰出第9款 民生費 繰出第10款 予備費 国民健康保険特別会計 介護保険特別会計 老人保健医療特別会計				4議案の総括質疑 1540~1 4議案の討論 ・採決			

下げ止まりの傾向である。

○質問一 徴収努力を一生懸命やっても下がっている。区民の生活が苦しくなっているか。介護保険料の所得段階別人数を見ても所得の低い区民が増えている。ちょうど格差社会、貧困と格差の拡大が叫ばれ始めた時期でもあったが、就学援助を受ける家庭が増え、貯蓄ゼロの世帯の急増も指摘された。第一生命研究所によると、2004年の時点で20%が貯蓄ゼロ世帯である。若い方にも高齢者にも増えている。「ここに目を向けた施策が行なわれる必要がある。消費税の増税などは慎重にすべき」と指摘している。

04年度予算の区長あいさつでは地方財政計画が前年度対比0・4%減となっていることをとらえて「きびしい財政状況だ」と強調している。

しかし、さすがに05年度予算の区長あいさつは単純に「きびしい」とはいえなくなった。すると今度は、「変動し、区自身でコントロールできない財源の存在」、つまり景気回復や三位一体の改革など流動的で分らないし、区の財源の多くを占める財調などはあてにならないと、別の理由を持つてくる。

そして、「歳出の構造転換による実質的な財源の捻出」、つまり、歳出を削ることは、苦しいけれど区自身でコントロールできるのだから削って財源を捻出するんだということのべて、また区民施策削減を進めるといのが区の姿勢だ。

増税などであるおった財源は、区民のために生かして、(負担軽減策など)区民の生活や営業を支えるために使っていくべきだ。「これだけ区民が苦しんでいる中で貯金どころじゃない。」と

日本共産党  
足立区議団ニュース

2006.10.4 NO.1  
発行 日本共産党足立区議団  
中央本町1-17-1 足立区役所内  
e-mail:acmp@blue.ocn.ne.jp  
区議団ホームページ  
http://www.cpi-media.co.jp/adachi

つらへ続

# 現在の区の積立金478億円。区民のために使えるえ財源は充分ある

いう人もいる。区長はこういう区民の状態をどう見ているのか。

●助役―本会議で答弁した以上の答弁を区は持ち合わせていない。区に入ってくる財源全部、区民のために使っている。



○質問―区財政先にあるから、区民のくらしは二の次三の次だ。こういう姿勢だから、財政がうるおう中で、子育て世代を直撃する保育料の20%値上げの開始、社会教育団体施設使用料の全額徴収、高齢者福祉電話の縮小、シルバーカー、電磁調理器など、日常生活用具給付の削減が行なわれたと思うがどうか。

●答弁―将来に向けての再構築のため致し方ない選択もあったと思う。

○質問―区は6月には高齢者の非課税措置の廃止を決める条例を提出。わずか195万円で支えられる障害者の補聴器の電池や杖先のゴムまで有料にし、9月議会では住区センターの有料化を強行した。学校の安全をいながら、学校警備員を全廃した。

実はこの年、区立文化芸術劇場の管理運営について、不明朗な支出と管理運営会社の乱脈経営が問題になった。コミュニティアーツには17年度5億5000万円の予算が計上されたがどうなったか。

●答弁―6月に決算をしっかりとやって、余ったお金は返還してもらった。

## 総額六四〇億円の大型開発を打ち出し そのために五百億円の積立を宣言

○質問―この年は湯河原区民保養所を巡っての収賄事件もあり、区政の無駄遣いが明らかに。都市活性化センターの解散を巡っても区民にとって納得の行かない処理が行なわれ無駄遣いが指摘された。しかし区は、総額640億円の大型開発を打ち出し、そのために500億円の積立を行なうと宣言したがどうか。

●答弁―17年度は160億円積立て、65億円取り崩して316億円の積立残高となった。18年度は現在までに478億円の積立金となった。

○質問―区民は疲弊している。そこに目を向けていない。都政新報でも、23区は、歳入の増加を支出に回さず、積立金を増やしている。積立金はピーク時(1991年)のバブル時期の規模に近づいていると報道しているが、足立区もかつての積立金790億円も遠くない500億円突破に近づいている。

結局「改革」と言いながら、区民サービスの向上や生活を支える視点がなく、うるおったお金は区民のためには使われず、区財政と一部企業は潤い、区民はいっそう苦しい生活と営業を余儀なくされてきた。こうした姿勢を転換し、区長がやる気になれば一般会計のわずか0.63%を増額するだけでも区民を支える第一歩を踏み出せると、わが党は予算組替案と条例案を提出してきた。子ども医療費助成の拡充について、我が党は条例を提案した。いずれも自民・公明・民主に反対された。現在はどうなっているか。

●答弁―18年度に小学3年生までの入院医療費助成、来年度は中学3年生まで拡大する。

○質問―住宅改良助成の拡充については、耐震診断、補強工事、自己資金でもできるようにと提案してきた。現在どうなっているか。

●答弁―今年度から木造住宅を中心に助成を進めてきた。来年度にむけて分譲マンション、共同住宅も含めて現在どうやるべきか検討している。

○質問―提案した方向で実現している。やる気になればできる。足立区版マイスター制度はどうか。

●答弁―(質問を聞いて)今すぐお金を使ってしまう方がいいといっているように聞こえるが、大多数の人は将来のことを考えている。

○質問―お金を全部使えと言っていない。一部をまわして区民の生活を支えることができなかったかその姿勢を聞いている。三位一体の改革での今後の財政状況はどうなるか。

●答弁―三位一体改革に伴って地方税財政が改革されてきている。19年度は税源移譲により若干上回る。しかし、1160億円の起債残高には、減収を補てんする赤字債が242億円ある。赤字補てん債は圧縮したい。今後の一般財源はよくて横ばい、長期的には右肩下がりになるだろうと、中長期的に、財政状況をつかんでいる。

○質問―三位一体改革のなかでも上回る見通しが明らかになった。こういう財源も使って区民の生活と営業をささえる区民本位の財政運営に転換されることを強く求める。

日本共産党の質問日・時間・内容です。  
ぜひ傍聴においでください

質問日	質問時間	質問者	主な質問内容(予定)
0月2日(月)	午前11:30~	鈴木けんいち	決算の特徴や、区長の政治姿勢など
	午後1:50~	橋本ミチ子	保育園民営化・子育て支援など
0月3日(火)	午前10:30~	さとう純子	障害者瀬策・増税負担軽減提案など
	午後1:00~	針谷みきお	市場化テスト・公有財産問題など
0月5日(木)	午前10:00~	松尾かつや	交通政策・青年雇用など
	午後3:30~	伊藤和彦	産業振興・業者支援など
0月6日(金)	午前11:30~	橋本ミチ子	公園計画・学校の環境対策など
	午後3:10~	伊藤和彦	都住の名義継承問題 マンション政策など
0月10日(火)	午後3:40~	さとう純子	教育について
	午前10:30~	松尾かつや	総括質疑
0月11日(水)	午後1:40~	針谷みきお	総括質疑
	午前10:30~	さとう純子	総括質疑
	午後1:00~	鈴木けんいち	総括質疑
	午後3:40~	橋本ミチ子	討論